

# 新しい学びの時代における IT 技術者の学び続ける力の向上に向けた取り組みの実践

服部 智明

日本電気株式会社

**概要**：Certified IT Professional(CITP)コミュニティの専門部会(SIG)として発足したアラサー技術者交流 SIG、その活動の狙いは、CITP を取得した IT 技術者が先導して企業を超えた学びをシェアできる場をつくり、知識、経験、文化の異なる人達との交流を通じて参加者の CAN(できること)や Will(したいこと)を広げる支援をすることにあります。学び方の選択肢が増え、新しい学びの時代へ変わりつつある今、IT 技術者同士で学びをシェアする人材交流活動のあり方を検討し、実践を行ってきました。その内容を本稿ではご紹介します。

**キーワード**：CITP, IT 技術者, 学び, 交流活動

## 1. IT 技術者と学び続ける力

### 1.1 IT 技術者とは

あなたは IT 技術者と聞いて、どんな人物像を思い浮かべますか？AI やビッグデータの活用に長けた人、Python や Java といったプログラミング言語を扱うことに長けた人、IaaS、PaaS、SaaSなどを組合せ、クラウドファーストでシステムアーキテクトを考えられる人など、様々なシーンで活躍する人物像を思い浮かべることでしょう。そんな日進月歩で進化する IT を駆使して活躍する IT 技術者とは、常に自分を進化(アップデート)させ、IT を役立たせることができるスキルを有する人だと考えています。

### 1.2 日本の IT”人材”の自己研鑽状況

”生産”の時代は、職人と呼ばれる人の持つ技を、1 つずつ実現可能な生産工程へ分解し、一定の品質を保つための管理手法に基づき安価に大量に生産することが重要視されていました。IT 業界においても、その生産のための作業を確実に効率よく行うためにシステム化していくことが主流で、課題をどうすれば解決するのかもイメージしやすく、IT 人材が 1 人前の IT 技術者となるために何を学ぶべきなのかモデルがあったと思います。一方で、時代はデジタルフォーメーションをはじめとした”創造”の時代へとシフトしつつあります。その動きはとて早く、考えられたアイデアが次々と新しいサービスとして生まれています。それは常に自分をアップデートさせなければ、気が付けば IT 技術者としての価値が薄れ、ただ IT に関わっている人材と成り果ててしまうかもしれないという危機であると言えます。しかしながら、経済産業省が公表した IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果[1]によると、各国と比較して日本は、会社の教育・研修制度や自己研鑽支援制度に関する満足度はとても低く「満足している」「どちらかと言えば満足している」が合わせて約 40%、日頃の自己研鑽の程度も「自主的に勉強している」人が 2 割を切っています。なぜなのでしょう。

### 1.3 広がる学び方の選択肢

政府の人生 100 年時代構想会議の資料では、正社員の学び直しの障害についての調査結果が公開されています[2]。実に 78.4%の労働者が学び直しに問題を抱えており、問題点の内訳は「忙しくて余裕がないこと」がダントツです。確かに、忙しくて余裕がないなかで、自分の有限な時間を割き、費用をかけ、新しいことを学ぶことには心理的な抵抗感があり、身構えてしまうかもしれません。ひと昔の「学びなおし」と言えば、企業研修や社会人大学、ビジネススクールが主流で、独学で学ぶためには新聞や書籍を読むことが有効な手段だったと思います。その時間と費用がかかるイメージがまだ根強いのだと思います。しかし、今や実際の学び方はそのイメージとは変わり、学び方の選択肢はどんどん広がっています。2001 年には Wikipedia 日本語版が発足し、インターネットで情報検索する時代が始まり、PC とインターネットさえあれば、なんでも調べられる時代となりました。2008 年には、iPhone が日本で発売されました。個人が気軽に持ち歩けるデバイスであるスマートフォンで、どこでも情報検索ができ、学習アプリをインストールして移動中に学習できる時代が始まりました。やがて端末性能や通信技術の進歩により youtube 等のリッチコンテンツ利用が広まり、オンライン上で学べる機会がさらに広まってきました。近年では、AI・ICT を活用して個人の習熟度に合わせた学習方法であるアダプティブ・ラーニングが生まれてきています。忙しくて余裕がない人向けの時間も費用も少なく済むサービスも多く生まれています。広がった多くの学び方から自分にあった学び方を選択して学び続けることが IT 技術者の価値を維持するため重要な時代が来たといえるでしょう。

## 2. IT 技術者の学び続ける力の向上に向けた取り組みの実践

### 2.1 なにを学ぶか

IT 人材白書 2019 のメッセージには、「知識を吸収し、新しいことにチャレンジしよう」[3]とあります。さて、何か

ら学ぶべきなのでしょう。そもそも学びとは、受動的に教わる勉強とは異なり、自分から進んで取り組むことであるため、興味からそれに関係する情報に触れていくことが最初のステップだと私は考えます。身近な興味から学び、更なる好奇心を生み、学びにつなげるサイクルを繰り返し、100人に1人レベルに得意になることを増やせば100×N分の1の人材になることができます。従来の蓄積してきた技術に加えて、自身の興味から学んだ様々な分野の知識を組み合わせることができるIT技術者こそが、“創造”の時代を生きるIT技術者のあるべき姿だと考えています。

## 2.2 CITP コミュニティ「アラサー技術者交流 SIG」

人材白書 2017 によると「技術の変化に合わせて自分もスキルアップしなければならないと思う」と考える IT 業界に従事する 30～40 代の IT 技術者は約 85%とあります [4]。その世代を中心に活動を行う CITP コミュニティの専門部会(SIG)「アラサー技術者交流 SIG」を発足しました。自分自身を図 1 のように Will・Can・Need で大別します。1 つ目の” Will” は、今の業務・仕事の内容に関わらず純粋に自分が今、もしくは将来にしたいことを指します。2 つ目の” Can” は、自分が今できるスキルや活動を指します。そして 3 つ目の” Need” は自分が属する会社や組織、社会に求められていることを指します。これら 3 つが重なる領域が最大限自分のパフォーマンスを発揮できる領域であり、この領域を広げることが非常に重要です。アラサー技術者交流 SIG の取り組みは端的に言えば、CITP を取得した IT 技術者が先導して企業を超えた学びをシェアできる場をつくり、知識、経験、文化の異なる人達との交流を通じて参加者の CAN(できること)や Will(したいこと)を広げる支援をすることです。普段の業務から少し離れ、いつもと違うメンバーとの交流によって常識をアップデートし、自己フィードバックや新しい興味を獲得し、学ぶモチベーションの向上を図ります。

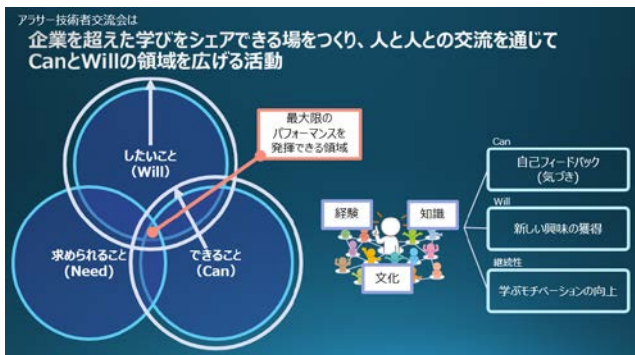


図 1 アラサー技術者交流 SIG の活動主旨

## 2.3 学びのシェアの実践「アラサー技術者交流会」

これまでに 4 回の IT 技術者同士の交流会「アラサー技術者交流会」を企画して実行してきました。

### 【開催実績】

- 第 1 回：テーマ「医療×AI」
- 第 2 回：テーマ「クラウドファースト(Azure)」
- 第 3 回：テーマ「デザイン思考」
- 第 4 回：テーマ「業務改善検討(kintone)」



図 2 アラサー技術者交流会(ワークショップ)の雰囲気

それぞれのテーマは発表者によって持ち込まれた内容です。発表者は自身のこれまでの学んできた内容を講演形式やワークショップ形式でシェアします。アラサー技術者交流会ではテーマ構成としてインプットとアウトプットを領域として分けてセッションを区切っています。インプットは、講演やワークショップを通じた他者から情報を与えてもらうことです。対してアウトプットは自身が何を与えるかを考え、他者に情報を与える活動です。アラサー技術者交流 SIG が提供する場合はインプット (聞く・見る) ⇒アウトプット (考える・発表する) 1 セットとしています。学びのシェアにより発表者と参加者の双方向でのコミュニケーションが生じ、お互いがフィードバックを経てさらに学びを深めていく流れが生まれています。この交流の場によって得られる刺激は、学び続けることの楽しさを感じさせてくれることと思います。

### 3. おわりに

新たな学びの時代は始まったばかりです。自ら学び、その得た学びをシェアすることでまた自分に深い学びを与えるための自己研鑽のモチベーションを高めるための交流の場をつくることを目的とした SIG 活動は今後も継続できるようにしていきたいと考えています。2020 年度もイベントを企画したいと考えています。本稿を読んで共感頂いた方、興味を持たれた方、是非とも次回のイベントにご参加頂ければ幸いです。

アラサー技術者交流会 (Facebook)

<https://www.facebook.com/groups/564872277371493/>

### 謝辞

本稿の作成にあたりご協力いただいた、アラサー技術者交流 SIG の皆様、イベントにおける講師を務めていただいた方々、ご支援くださった CITP コミュニティの皆様、活動を支援くださった皆様に感謝します。

### 参考文献・資料

[1] 「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」, 経済産業省, (H28.6)

[https://www.meti.go.jp/policy/it\\_policy/jinzai/27FY/ITjinzai\\_report\\_summary.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/27FY/ITjinzai_report_summary.pdf)

[2] 「第 6 回 人生 100 年時代構想会議」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/03/1403144\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/04/03/1403144_3.pdf)

[3] 「IT 人材白書 2018」 p.3, 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)(2018)

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/jigyuu/about.html>

[4] 「IT 人材白書 2017」 p.217, 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)(2017)

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/jigyuu/about.html>

### 著者紹介



**服部 智明** (認定番号: 16000335)

日本電気株式会社 (株)

主任

[経歴]

2011 年同社入社後、製造業のシステム企画、開発、プロジェクト管理、アウトソーシングサービス等の業務に従事。CITP アラサー技術者交流 SIG の部会長として有資格者がファシリテートを務める交流イベントを企画・実行。

高度情報処理技術者(ST,SA,PM,DB)